

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキルに着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

○情報じょうほうを獲得かくとくする

- ・ 問題文から情報じょうほうや問題の条件じょうけんを正しくとらえる
- ・ 図やグラフなどから情報を正しくとらえる

○再現さいげんする

- ・ 計算を正しく行う
- ・ 問題の指示しじ通りの操作そうさを正しく行う

○調べる

- ・ 方針ほうしんを立て、考えられる場合をもれや重複じゅうごうなく全て探さがし出す
- ・ 書き出すことを通じて、法則ほうそくを発見する

○順序じゆんじょ立てて筋道すじみちをとらえる

- ・ 変化する状況じょうきょうを時系列じけいれつで明らかにする
- ・ 複雑ふくざつな状況を要素ようそごとに順序立てて整理する
- ・ 前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

○特徴とくちょう的な部分ぶぶんに注目する

- ・ 等しい部分に注目する
- ・ 変化しないものに注目する
- ・ 際立きわだった部分(計算式の数、素数そすう、約数、平方数、…など)に注目する
- ・ 和、差や倍数関係に注目する
- ・ 対称たいじゆうせい性に注目する
- ・ 規則きそくや周期に注目する

○一般いっぱん化する

- ・ 具体的な事例じしよから、他の状況にもあてはまるような式しきを導みちびき出す
- ・ 具体的な事例から、規則きそくやきまりをとらえて活用する

○視点してんを変える

- ・ 図形を別の視点で見ると見る
- ・ 立体を平面的にとらえる
- ・ 多角的な視点で対象をとらえる

○特定じゆうきようの状況じょうきょうを仮定かていする

- ・ 「極端きょくたんな場合を想定して考える(もし全て○○なら、もし○○がなければ、…など)
- ・ 不足おびなを補おぎなったり、余分よぶんを切りはなしたりして全体をとらえる
- ・ 複数ふくすうのものが移動いどうするとき、特定のものを移動させて状況をとらえる
- ・ 具体的な数をあてはめて考える
- ・ 解答かいとうの範囲はんいや大きさの見当をつける

思考スキル

○知識^{ちしき}

- ・ 情報を手がかりとして、持っている知識^{ちしき}を想起する
- ・ 想起した知識^{ちしき}を正しく運用する

○理由

- ・ 筆者の意見や判断^{はんだん}の根拠^{こんきょ}を示す^{しめ}
- ・ ある出来事の原因^{げんいん}、結果^{けいこ}となることを示す^{しめ}
- ・ 現象^{げんしょう}の背後^{はいご}にあることを明らかにする

○置き換え^か

- ・ 問いを別の形で言い表す
- ・ 問題^{じょうきょう}の状況^{じょうきょう}を図表などに表す
- ・ 未知のものを自分が知っている形で表す
- ・ 具体的な数^ひと比^ひを自由に行き来する

○比較^{ひかく}

- ・ 多角的な視点^{してん}で複数のこと^{くら}がらを比べる
- ・ 複数のこと^{くら}がらの共通点^{きょうつてん}を見つけ出す
- ・ 複数のこと^{くら}がらの差異^{さいい}を明確^{めいかく}にする

○分類^こ

- ・ 個々の要素^こによって、特定のまとまりに分ける
- ・ 共通点^{きょうつてん}、相違点^{さういてん}に着目^{ちやくもく}して、情報を切り分けていく

○具体・抽象^{ちゆうしやう}

- ・ 文章から筆者の挙げる例、特定の状況^{しんじょう}や心情^{しんじょう}を取り出す
- ・ ある特徴^{とくちょう}を持つもの^{しめ}を示す
- ・ 個々の事例^{じせい}から具体的な要素^{のぞ}を除いて形式化する
- ・ 個々の事例^{じせい}から共通する要素^{きょうつてん}を取り出してまとめる

○関係づけ

- ・ 情報^{じょうほう}どうしを結び付ける
- ・ 要素間の意味^{いみ}を捉え^{とら}、情報^{じょうほう}を補う^{おぎな}
- ・ 部分^{ぶぶん}と全体^{けんたい}のそれぞれが互^{たが}いに与えあ^{えい}う影響^{えいきょう}に目を向ける
- ・ ある目的^{しゆだん}のための手段^{しゆだん}となることを見つけ出す

○推論^{すいろん}

- ・ 情報^{じょうほう}をもとに、論理的^{ろんりてき}な帰結^{きけつ}を導き出す
- ・ 情報^{じょうほう}をもとに、未来^{みらい}・過去^{かこ}のことを予測^{よそく}する
- ・ 情報^{じょうほう}を活用^{かっくわ}して、さらに別の情報^{じょうほう}を引き出す

小学5年 基礎力テスト(国・算) —— 解答と解説

算数 (国語と算数あわせて40分)

1

(1)	91171	(2)	51	(3)	56.16
21		22		23	
(4)	0.32	(5)	6.5	(6)	$3\frac{4}{5}$
24		25		26	

2

(1)	96	度	(2)	240	円	(3)	105000						
27			28		29								
(4)	5	a	(5)	りんご	なし	ぶどう	バナナ						
30				31									
(6)	①	ア	6	cm	イ	5	cm	ウ	4	cm	②	60	cm
(完答)32												33	

3

(1)	3	はい分	(2)	7	はい分	(3)	4.5	L
34			35			36		

4

(1)	42	cm	(2)	66	cm	(3)	50	cm
37			38			39		

国語

(国語と算数あわせて四十分)

問七	
ウ	50
問八	
文章	
の	
構造	51
問九	
ア	52

問四	
イ	47
問五	
イ	48
問六	
全	
く	
人	
ゝ	
ない	
い	
で	49

問二	
①	
五	
②	
白	(完答) 45
問三	
生	
き	
て	
ゝ	
の	
極	
意	46

問一	
a	
課題	40
b	
重要	41
c	
投	42
d	
訓練	43
e	
主流	44

(配点)

算数

① 各2点×6=12点

② (1)~(5)各2点×5=10点 (6)各3点×2=6点

③ (1)3点 (2)(3)各4点×2=8点

④ (1)3点 (2)(3)各4点×2=8点

国語

問一……各2点×5=10点

問二~問九……各5点×8=40点

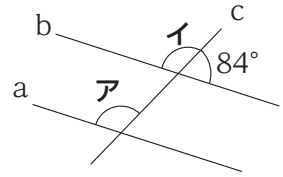
計100点

【解説】

② いろいろな文章題

(1) **A1** 情報を獲得する 知識

平行な直線は、ほかの直線と等しい角度で交わるので、
右の図で、 $\text{イ} = \text{ア} = 180 - 84 = \underline{96}$ (度)



(2) **A1** 情報を獲得する 再現する

代金 = (ケーキ4この代金) + (はこの代金)
 ケーキ4この代金 = (代金) - (はこの代金) = $1060 - 100 = 960$ (円)
 ケーキ1このねだんは、 $960 \div 4 = \underline{240}$ (円)

(3) **A1** 情報を獲得する 知識

上から4けた目は4なので、499は切り捨てて、105000

(4) **A2** 情報を獲得する 再現する

全体の面積は、 $20 \times 30 = 600$ (m²)
 $1a = 100\text{m}^2$ より、 600m^2 は6aにあたります。
 斜線の部分しやせんの面積は、 $6 - 1 = \underline{5}$ (a)

(5) **A2** 情報を獲得する 調べる

①と③のAとCのなしに×を入れると表1になります。表の○がついたたと横のらんはすべて×になり、×がたてまたは横に3つついたらんは○になることをりようすれば、表2になり、残りの3人の好きなくだものは、A=ブドウ、C=りんご、D=なし。

表1 好きなくだもの

	りんご	なし	ブドウ	バナナ
A	×	×		
B				○
C		×		
D				

⇒

表2 好きなくだもの

	りんご	なし	ブドウ	バナナ
A	×	×	○	×
B	×	×	×	○
C	○	×	×	×
D	×	○	×	×

(6) ① **A2** 知識 再現する

頂点Bと頂点Cは、頂点Aからのたて方向の位置が等しいこと、頂点Bは横方向に0、頂点Cはたて方向に0であることより、位置を表す順番は、頂点Aからの(横、たて、高さ)の長さになり、頂点D(6 cm、5 cm、4 cm)。ア=6, イ=5, ウ=4

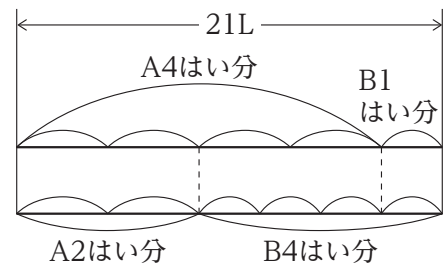
② **A2** 知識 再現する

この直方体の辺の長さは、たて=5 cm、横=6 cm、高さ=4 cm
 それぞれ4本ずつあるので、 $5 \times 4 = 20$ (cm) $6 \times 4 = 24$ (cm) $4 \times 4 = 16$ (cm)
 辺の長さの合計は、 $20 + 24 + 16 = 60$ (cm)

③ 共通部分に注目して解く問題

(1) **A2** 特徴的な部分に注目する 置換

右の図のように、21Lを線の長さにして表すと、
 Aの、 $4 - 2 = 2$ (はい分) と、Bの、
 $4 - 1 = 3$ (はい分) が等しいことがわかります。



(2) **B1** 特徴的な部分に注目する 置換

Aの2はい分がBの3はい分なので、Aの4はい分は、 $3 \times 2 = 6$ (はい分) なので、
 21Lは、 $6 + 1 = 7$ より、Bの7はい分。

(3) **B1** 特徴的な部分に注目する 置換

Bの7はい分が21Lになるので、B1はい分は、 $21 \div 7 = 3$ (L)
 (2) より、A2はい分はB3はい分に等しいので、A1はい分は、 $3 \times 3 \div 2 = 4.5$ (L)

4 長方形のまわりの長さ

- (1) **A2** 特徴的な部分に注目する 再現する

長方形の面積は、 $10 \times 16 = 160$ (cm²)

アの面積は、 $160 \div 2 = 80$ (cm²)

右の図で、ウの面積は、 $10 \times 6 = 60$ (cm²)

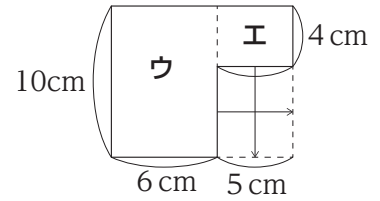
よってエの面積は、 $80 - 60 = 20$ (cm²)

エの横の長さは、 $20 \div 4 = 5$ (cm)

アのまわりの長さは、右の図のように同じ長さの部分をつつすと、

たて10cm、横 $6 + 5 = 11$ (cm) の長方形のまわり長さと等しくなることがわかります。

よって、 $(10 + 11) \times 2 = \underline{42}$ (cm)



- (2) **A2** 特徴的な部分に注目する 再現する

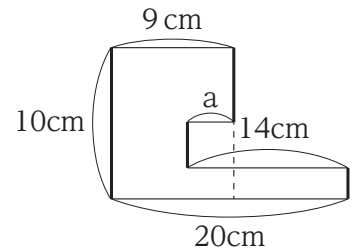
たての長さの合計は、右の図の太線でしめたように、

$10 \times 2 = 20$ (cm)

右の図のaの長さは、 $9 + 14 - 20 = 3$ (cm)

横の長さの合計は、 $9 + 3 + 14 + 20 = 46$ (cm)

よってアのまわりの長さは、 $20 + 46 = \underline{66}$ (cm)



- (3) **B1** 特徴的な部分に注目する 置換

たての長さの合計は、右の図の太線でしめたように、

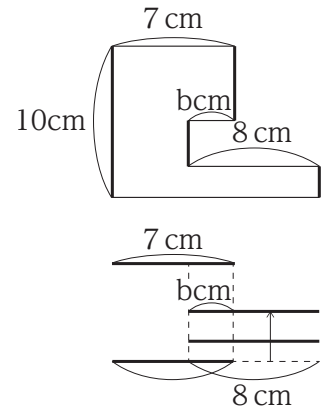
$10 \times 2 = 20$ (cm)

横の長さの合計は、右の図の下の8 cmよりb cm短い分を矢印のようにずらすと、

7 cmと8 cmの辺が2本に等しくなります。

横の長さの合計は、 $(7 + 8) \times 2 = 30$ (cm) となり、

アのまわりの長さの合計は、 $20 + 30 = \underline{50}$ (cm)



【解説】

齋藤孝「教育力」(岩波書店) から出題しました。どんな分野であっても上達の基盤になるのは、「真似る力」であるということ、創造する上でも「真似して吸収する」ことが基盤になることが述べられています。その上で、日本では、子どもたちに先生のことの真似をさせる、ということが教育の主流だったことがされ説明されています。具体例の部分と結論の部分を意識しながら読み進めましょう。

問一 A2 知識

四年生までの漢字を問う問題です。㊦「主流」とは、中心となる考え方や傾向のこと。難しい言葉ですが、前後の文脈から、あてはまる漢字を考える習慣をつけましょう。

問二 B1 知識 関係つけ

①「…五里霧中」とは、深い霧の中にいて方向がよくわからない、ということから、事情がつかめなくてどうしていいかわからない、という意味の四字熟語です。②「…文脈から、頭の中にはなにもない、というような意味でしょうから、ここに入る色は「白」です。「白」は「空白」「白紙」のように何も無い、というイメージで使われることがある漢字です。

問三 B1 比較 関係つけ

言い換えの表現を探す際、——線部分はもちろん、——線を含む一文をよく読み、その中でキーワードを見つけることがポイントになります。——線③の「上達の普遍的な原則」は、先生が生徒たちに「伝える」ことです。注釈にもあるように、「普遍的」とは「すべてのものにあてはまる」という意味です。そのうえで、「上達」「普遍的な」「伝える」ということと同意の表現を探しましょう。すると、二段落前に、「その後一生生きていくために必要な上達の極意を伝える」という表現がみつかります。
※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B1 関係つけ

接続語の問題では前後の文の関係に注目しましょう。④の前では「聞こえがよくない」とあり、後で「どうしても必要なこと」とあるので、前後

で逆のことを言っていることがわかります。よって、ここには逆接の「だが」が入ります。

問五 B1 理由 推論

「この行為」とは「真似る」ことです。ですから、この問は、「真似ること」が「人間が新しいことを獲得するときに、どうしても必要なこと」である理由を答える問題です。すると、直後に、「真似る力の重要な点は、感覚を捉えるということ」とあり、イチローの例をはさみ、「真似することで(新しいことを獲得するときに必要な)感覚を掴んでいったということだ」と結論づけています。これと同意の選択肢はイです。ア「真似る」ということに触れていません。ウは「その道のプロに基本を…教えてもらわなければ」、エ「完璧に真似できなければ」「技術がともなわず…完成されない」などの表現が本文中にありません。ウは「真似る」ということと重なる部分が多い選択肢ですが、本文中に書かれていない表現まで含まれている上、「感覚を掴む」ということにも触れられていないので、イの方が適切だといえるでしょう。

問六 B1 関係つけ

「無から生み出す」と同じ意味の表現が——線⑥の二つ後の段落に示されています。「全く人のものを見ないで…自分の内側から湧き出るものに耳を傾けるといいものができる」の部分です。書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B1 理由 推論

——線⑦の直前に「英語でも日本語でも音読を聞くと、区切り方でその人が意味を理解しているのかどうか、ということもわかる」とあることに注目しましょう。——線⑦の段落で『春琴抄』がどういう文で構成されている小説なのか説明し、その次の段落で、「日本語のわかってる人にとっては、句読点はないけれども、ああここで実際に切れているんだということはわかる」とあります。『春琴抄』は音読させたときの「区切り方でその人の日本語の能力がある程度把握できるということ」を説明するための例だということがわかります。

問八

B1 関係づけ

「日本語がわかっている人」と対照的な存在そんざいは、「春琴抄」を読まされた「子どもたち（大学生）」です。筆者は彼らかれのことを「文章の構造こうぞうが身につけていない」と評しています。

※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九

B1 関係づけ 推論

「身体から身体へ伝える」日本の教育方法は「復唱かくしょう」「口伝え」です。つまり、「真似させる」ということです。